

ドラマ神奈川

第10号

1997年4月19日発行【神奈川県演劇連盟】

●横浜市中央区福富町西通り52 ☎045-261-4866

G/9 Project

G/9-Projectは4年前、STスポットを中心に活動している劇団が寄り集まって結成されました。現在スタッフ・キャスト合わせて6名が正規劇団員として活動、小劇場空間を活かした芝居作りを目指しています。

劇団河童座

横須賀の老舗は只今フィゲレード作「狐とぶどう」の稽古中。久々という既成の作品にワークショップと併行しながらとりにくんでいます。家族的な雰囲気、暖かい稽古場風景でした。

京浜協同劇団

今年創立38年。前史がある。黒沢参吉が第一次川崎協同劇団を作ったのが1936年。建設を経て3劇団合同で今日に。歴史はその地、どう息づいてきたかの証しでもある。

女性ばかりのミュージカル劇団。今年は地下に根をのぼす成長を、と穏やかな中にも真しな姿勢が感じられました。4月からのワークショップ、そして終了時の公演に期待大。

湘南ミュージカル・シアター

稽

古

場

訪

問

劇団横濱にゆうくりあ

用語から始まって柔軟、発声、感情表現、エチュード。そのうえ実際の舞台を使って効果照明の勉強会もある。…新人を含めた春のワークショップ。県演連の皆も参加しない？

劇団葡萄座

来週本番、今日は通し。まして50周年記念。緊張ピリピリ？いえ伸び伸びと演ってます！演目のせいか、葡萄座のモットーが団員にしみ込んでいるせいか、伝統の強みか。流石！

劇団麦の会

麦の会創立50年記念公演「大正黒猫団」の稽古が岡野青少年の家でスタート。ドアを開けると、な・なんと、あの山元氏がソーシャルダンスの指導中。これは、絶対見逃せない。乞うご期待!!

横浜小劇場

女優の立居姿の美しさにうっとり。
・演出は角の隅からやさしい声、ひと声。
・裏方は男性の目！目！
・道具と本に囲まれた小劇場はここが原点。

公演スケジュール

劇団麦の会 6/14(土)14:00 15(日)18:00 関内小ホール 高津一郎/作・演出『大正黒猫団』
蒼生樹 7/11(金)19:00 12(土)14:00/18:00 13(日)18:00 教育文化ホール 飯島早苗、鈴木裕美/脚本『法王庁の避妊法』
劇団河童座 5/9(金)19:00 10(土)19:00 11(日)14:00 相鉄本多劇場 G・フィゲレード/作『狐とぶどう』
G/9-Project 5/17(土)18(日)相鉄本多劇場 仲尾玲二/作・演出『12人の、』※紋奈里座との合同公演

神奈川県演劇連盟 加盟劇団連絡ノート

京浜協同劇団

211・川崎市幸区古市場2-109
TEL 044-511-4951

川崎演劇塾

214・川崎市多摩区寺尾台2-8-12-504 小川方
TEL 044-951-9819

劇団葡萄座

220・横浜市西区宮ヶ谷2-2メゾン前橋302山本方
TEL 045-311-8208

劇団麦の会

220・横浜市西区伊勢町1-61 高津方
TEL 045-241-2828

劇団かに座

220・横浜市西区岡野町1-3-14 田辺方
TEL 045-311-5682

横浜小劇場

231・横浜市中区福富町西通り52横浜演劇研究所内
TEL 045-261-4866

劇団蒼生樹

220・横浜市西区伊勢町3-133-824 濱田方
TEL 045-242-3584

劇団横浜にゆうくりあ

220・横浜市西区中央1-30-17 泉谷方
TEL 045-321-1920

劇団G/9 Project

235・横浜南区南大田4-38-27喜楽荘06 佐藤典久方
TEL 045-716-5297

劇団河童座

237・横須賀市田浦町4-32 横田方
TEL 0468-23-7443

劇団蒼い群

238・横須賀市佐野町6-41 福本方
TEL 0468-56-3157

プロジェクト夢樹

239・横須賀市大津町4-43 吉本方
TEL 0468-36-7494

劇★派

238・横須賀市上町2-1 ネバーランド内
TEL 0468-27-1631

湘南ミュージカルシアター

253・茅ヶ崎市ひばりが丘1-10 前田方
TEL 0467-85-4313

劇団こゆるぎ座

250・小田原市本町2-2-20 梅月食堂内
TEL 0465-22-2988

'96年度 第6回

理事会の報告

劇団かに座

田辺晴通

1月18日劇団かに座稽古場で開催した理事会、及び1月27日県文化室と懇談した結果の主な内容を次のとおり報告する。

1、理事会

①、平成8年度神奈川県演劇フェスティバル報告＝県あて報告のため参加公演内容についての確認、なお各劇団の活動状況については総会資料に添付されている。

②、横須賀青少年会館問題その後の報告＝県市、相変わらず水面下での折衝がなされているようだが結果はまだ聞かされていない、平成10年3月までは現状維持とのことであるが、利用方法について関係団体間での意見が分かれたままとのことであった。

③、「ドラマ神奈川テント劇場・ラリー」報告＝県演連プロデュース公演の収支報告があり、入金不能に近い未収入金あるも赤字ではない(黒字41円)ので、入金あれば付け加えるとして承認された。なお「横浜アートLIVE、'96テント劇場」の入場者数8321名、本催しは成功したか、テントの特性は活かされたかのアンケートに、他団体の「はい」との回答が多いなかで、県演連としては、相乗効果なくまたこれからの課題としてとらえ、何れも「いいえ」と回答したこと、及び40万程度の赤字だが県演連が参加することで補助金が支出されていることから負担はない旨の報告がなされた。また'97年度も催すということ補助金申請(自治省。県市

からは予算のない旨すでに申し渡されている)したが具体性がない理由でダメのようとのことであった。

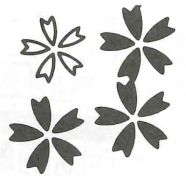
④、総会・交流会＝当機関誌、総会時発行とのことであるので省略(議案書については3月15日理事会開催審議)

⑤、機関誌その他＝機関誌9号の遅延理由について説明がなされ、併せて編集方法等の改善提案がなされ了解事項となった。また、県あて要望書を提出していること、'97年度の補助金等について確認する必要もあることから、至急文化室に赴くこととした。

2、文化室との懇談会…出席者、飯田理事長、山本副理事長及び田辺、

① 補助金については本年度と同額が確保できたとのこと、また、フェスティバル形式も同様で差し支えないこと。
② 別予算で同額程度確保できたのでひとつの催しを、企画してほしいとの要望があったこと

③ 演劇脚本コンクール入賞作の上演についてヤリクリ予算で若干は補助できることからの上演依頼がなされたこと、なお、入賞作7編の原稿。横浜演劇研究所とかに座で預っているので興味ある方は読んで頂きたいと思っている。



湘南ミュージカルシアター

「森と空と少女と…」

11/23(土)茅ヶ崎市民文化会館小ホール

満員御礼の客席に響き渡る素敵な歌声。さすが「ミュージカルシアター」と云う看板を掲げてあるだけに歌が上手い。そして、二人以上で歌っても、リズムが狂わない正確さは特筆すべきである。

母親に辛く当たっている少女が森へ心を慰しに行き妖精と出会う。しかし、その森は少女の父親の手により、開発されようとしていた。一親子の絆と、自然の大切さを同時に、又、判りやすく客席の多くを占める子供達に訴えかけていた。上演時間が1時間であったと云うのも、子供達に是非、理解してもらいたかったからではないだろうか。



美しい歌声に、美しい自然。今、人間には何が必要かを考えるのに最適な作品であった。明日の未来を支えていく子供達にはどう響いたのであろうか。何十年後、ふと気付くと、森が昔のままであったりすると、今回の公演は大きな意味で成功であったと思う。

(劇団葡萄座 難波)

劇団葡萄座



「11ぴきのネコ」

3/1(土) 3/2(日)

関内ホール

創立五十周年を記念する企画にふさわしい元気のある舞台。腹をすかせた11ぴきののらネコ達が、都会をすてて大きな魚を求めて旅に出る。死ぬ思いでしとめた大きな魚。やがてそこにのらネコ達のユートピアを建設するのだが、彼らが求めたものは。終末は残酷。主人公のにゃん太郎をはじめ、俳優は気張らずに楽しく舞台を駆けめぐりとても好感の持てる舞台。しかしこの芝居は音楽によって半分以上を左右する。20曲をオリジナル。努力はうかがえるが合唱によるインパクトが今一客席に届かないのが惜まれる。構成としてプロローグに機械化された人間社会が組み込まれるが、それが終局に元リーダーのにゃん太郎が撲殺される絵にダブらないのは本のせいだろうか。道具もひとひねりあり楽しめたが大きな魚は役不足。劇団が心配していた大ホールの舞台に、客席は親子の姿が多く、見入る視線もほほえましく、温かなひと時でした。

(劇団川崎演劇塾)

G/9 Project

「ミスキャスト'96」

12/1(金) 12/23(日) STスポット

「遅れたー」と飛び込んだSTスポット、座長の仲尾氏悠然とメイク中、「3時からだから待ってて」…1時間間違えた…でも仲尾氏まで出演なんて役者が足りなかったのかななんて思ったりして…

静かに開演、一寸若すぎる感じの中年管理職氏、寂しい雰囲気をかかえて帰宅、そこへ仲間賃の宝くじ当選の電話、喜ぶまもなくセールスマン(ウーマン?)の登場(仲尾氏でした)…「貴方の心の隙間埋めます」と息もつかせずまくしたて、中年管理職氏をその気にさせあつという間に当選くじを巻き上げさつと退場…

見ている観客を巻き込む見事な展開で、芝居の雰囲気引き込み、単身赴任先へ訪れるはずの家族が現れず管理職氏が「騙されたのかなー」と不安にかられたところで登場した奥さんと娘…レンタルのはずが自分にしか分からない家族の情報を披露、戸惑いながら「まったくほんとの家族みたい…」となげかける夫に、妻と娘は怪訝な表情…「お父さんどうしちゃったの…」

徹底して家族を通した楽しい2日間が過ぎ、妻たちが家へ戻る日、「手紙をくれないか」と娘に向かう夫に、妻と娘は目で確認、娘「別料金になります…」

すべての登場人物がそれぞれの雰囲気や人間模様を絡みあい、芝居くさくない…魅せられました。パンフに見れば半数以上が客演、再演のゆえか練れた舞台が感じられ、一寸得をした12月23日のG9プロジェクト公演でした。

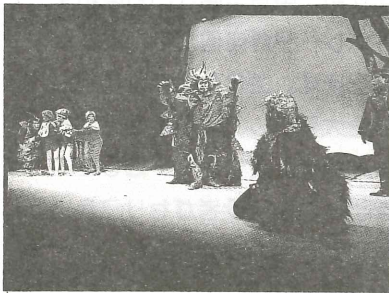
(劇団麦の会)

京浜協同劇団

「よだかの星
雪渡り」

3/22(土) 3/23(日)

川崎市幸文化センター



「よだかの星」では宮沢賢治が作曲した「星めぐりの歌」を取り入れたり、衣装も可愛らしく工夫されていた。子供が多いことで善悪の区別をはっきりさせ、動きも大きくせりふ回しも分かりやすく心がけられていた。また原作に加えて、他の賢治の作品の中からよだかの味方として「からすの少尉」を登場させている。しかし、そのせいで原作よりよだかの苦悩や孤独感が弱くなってしまったとの印象を受けた。「よだかの星」の内容が子供にはわかりにくだろうと配慮した結果かもしれないが、本来のテーマとは違ってしまったような気がする。また、最後の星になったよだかをなんらかの形で観客にも見せて欲しかった。

「雪渡り」では、狐の面をかぶった子供たちがたくさん登場し、可愛らしい歌と踊りを披露してくれた。表情が見えないのが残念だったが、気持ちよさそうに楽しそうに演じている雰囲気客席にも伝わってきて、ほのぼのとした気分になった。主役を演じる四郎とかん子もとても楽しそうだった。

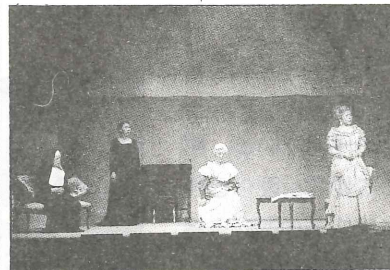
「演じる」楽しさを味わってもらう最初のお試し会としてこういう「かわさき演劇まつり」のような試みは素晴らしいことだと思う。

横浜小劇場

「サド侯爵夫人」

3/22(土) 3/23(日)

関内小ホール



劇評をたのまれて、大変困りました。と申しますのも、私のような若輩者が恐れ多いということと、とても難しいというのが正直なところ。それで何も知らない、ただブラリと立ち寄った一人の観客として感じた事をおそまつながら書かせていただきますことをどうぞお許し下さいませ。

第一幕にいきなり驚くようなシーンから始まり、2人の登場人物から、次第に3人それ以上へと転回し、サド侯爵の人物や事件について、まるでソナタ形式のように芝居が発展していく中、初めは、それぞれの役者と役柄が別のもので説明をうけている感覚がありましたが、だんだんひきこまれて集中していくのを感じました。暗転も程よく、芝居のテンポもリズムにのっているように思えました。とても感心したのは途中地震がありました。役者達の集中は途切れず、最後まで熱演していた事です。驚く程板にのった俳優達によるすばらしい舞台だったと思います。衣装やかつらもとても、目を楽しませてくれました。最初から最後まで、ドキドキするような作品でした。

(湘南ミュージカルシアター)

私が初めて芝居に触れたのは、中学生の頃だったと思います。田舎の古びた体育館で課外授業の一つとして観たのが、風の子の「肥後の石工伝」でした。ストーリーはあまり覚えていませんが綺麗な照明と役者の光る汗が、キラキラと輝いてやけに印象的でした。しばし夢のような世界に引き込まれ、大人になった今でも昔のアルバムを開くように、頭の隅にしっかりと焼き付いています。

・音を始めてから

音(効果を音といっています)を始めて20数年、関わった芝居、イベント、集会、構成劇etc、100数本を越えました。20数年を経てやっと少し、ほんのちょっとだけ見えてきたような気がします。

最初の頃は何が何だか解らず毎日が、無我夢中でした。人前であまり発言経験のない私は、一つの音を出すにも人前でしゃべるような境地でした。「間(ま)をつかめ！ちがう！役者のいきをつかむんだよ、芝居ごころだよ！」私には芝居ごころ……？わからない苦しくやりきれない稽古でした。でも逃げたいとか辞めたいかと思った事は一度もありませんでした。何故なら大勢の仲間がいる、新潟から横浜に来て始めて仲間と呼べる仲間を知ることができて、この仲間と一緒に創造という世界で一つになれる。一つの歯車になれる。自分の仕事がこの仲間の役に立つ実感みたいなものを感じました。

当時の私は障害者(私は小児麻痺の障害者です)というコンプレックスが看板を背負って歩いているようでした。見るもの全てが偽善者に見えて、当然、仲間なんて出来るはずもない。そんな私を変えてくれたのは芝居仲間でした。芝居の世界では世間でいう差別用語が平気で飛び交う不思議というか、歯に衣を着せないというか……しかし、私にとっては当たり前の世界でした。

・取り返しのつかないミス

効果というのは、上手くいって当たり前、ミスを

すればボロくそに言われます。一回でも違う音やキツカケを外すと、取り返しが付かない。変に音をOUTすればお客様に分かってしまうのが音で、誤魔化しが効かないのが現実です。音の失敗は沢山あります。音が出ない、出ないと当然、慌てる、血の気が引く(心拍数100以上)、頭真っ白、気が付くととなりのフェーダー(音のボリューム)を上げていました。繋いだはずのコードが抜けていた。音が足りなくなると次の音が出てしまう。テープ編集が雑で切れる、音の頭が出ていなくてキツカケをはずす、違う音を出してしまう、等々。一公演が終わってアンケート

に目を通すと、音楽が良かったというのは納得出来るのですが、効果が良かったとなると、複雑な気持ちになります。

芝居はご存じの通りアンサンブルです。芝居の一定のレベルを超えて音が主張し過ぎると、芝居を壊してしまう危険があります。したがって私自身は空気みたいな存在になりたいのです。しかし音が主張しなければいけない時には主張しなければなりません。中途半端がいちばんダメです。オペレータが自信がないと音はその通りに出ます。だから私は音に限らずメリハリを大事にし、「役者を助けるのが音楽や効果音」をモットーにしています。音を出すのは「役者がセリフを出す」のと同じだと思います。

・私なりの“こだわり”

一本の芝居を創るには、まず集団との関わりから始まります。何を考え、どんなことをやろうとしているのか知ることが大事です。そして次に作品との出会い。台本を何回も読んで、何回も稽古場に足を運んで、自分なりのプランを立てます。たとえば、ここに居酒屋があると、その店は商店街の内にあり電車が遠くに行き来している、近くにはスナックもある、そういう風景を描く。演出に自分のプランをぶつける。そして実際に音を作り稽古で出す。とにかく音を出して演出に伝えないと主張は出来ません。最近は既成の効果CDが沢山出ていますが、私には“こだわり”が有り、そのCDから音を取ればカン

音は出たり 引っ込んだり

劇団 蒼生樹 鈴木邦男



タンですが、私はそのままコピーをしません。何かしら手を加えます。たとえば、電車の音一つをとっても、速くに聞こえる場合は多少音にエコーを掛け音をこもらせ、少し高音を持ち上げます。時には速度も変え、それでも気に入らない場合は、現実音を収録、又は擬音にも挑戦、コピー屋にならない“こだわり”です。

・稽古場では恥をかけ

さて稽古場で音を出す。私が初めて効果をやる人達に伝えたい事は“臆病に成らず稽古場で多に恥

をかけ”と言いたい。そして、役者との葛藤があります。役者がレベルアップすると「やられた」と思う、必然的に効果の内容もアップ、互いに相乗効果みたいなものを感じ楽しむプロセスが好きです。ただし、音が役者よりも出っ張ってはいけません。それから、本番——。効果音の多・少に関わらず取り組み方に差別はしないこと。芝居が終わるといつも感じることは、形ではない心に残る財産(芝居)にしたい。一時、義務感と完璧主義だった私ですが、今では楽しみながら芝居を創っている自分がここにいます。

芝居に関わる効果の流れ

